

## 中米ニカラグアにおける風土病シャーガス病根絶のために —JICA プロジェクトをもとに

新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 村山健一郎、関千鶴、宇津木隆、小林容子、森脇健介、古西勇、村山伸子（新潟県立大学）、豊田保、瀧口徹

### 【背景】

本研究は国際保健医療学演習Ⅱの一部であり、中南米諸国に蔓延している風土病シャーガス病 (Chagas' disease) を JICA プロジェクトのデータをもとに調べ、筆者の赴任国であるニカラグアを巨視的な視点(いわゆる鳥の目)でさらなるプロジェクトの充実を目的に介入シミュレーションモデルを作成し、合わせて草の根活動をどう位置づけられるかを同国での活動経験を踏まえたプロジェクト案を検討した。

### 【方法】

赴任国ニカラグア及び中南米諸国におけるシャーガス病に対する JICA プロジェクト報告書などから、JICA の周辺国でのシャーガス病根絶のための取り組みの経緯を調査した。その上で赴任国でのプロジェクトプランを検討した。

### 【結果】

表1. 2005 年の中米3カ国のシャーガス病事情 (PAHO/WHO: 汎米州保健機関 2006 の推計による)

|         | ニカラグア     | グアテマラ      | ホンジュラス    |
|---------|-----------|------------|-----------|
| 総人口     | 5,142,200 | 12,599,000 | 7,205,000 |
| 推定患者数   | 58,600    | 250,000    | 220,000   |
| 有病率 (%) | 1.140     | 1.984      | 3.053     |

シャーガス病は、人獣共通の原虫感染症で吸血性のサシガメが媒介虫となり、感染後 6-8 週間の急性期では多くの場合風邪症状や無症状、稀に傷口や目に炎症反応が認められ、有効な治療薬がある。慢性期が 10-20 年と長く、診断や治療が困難となり心肥大や巨大結腸症等をきたし感染者の約 10% が死亡する。サシガメは家屋の茅葺き屋根や土壁に多く生息し、人間や動物を吸血するために、こうした家屋環境に住む貧しい人々が犠牲になるため「貧困層の疾病」とも言われている。

JICA は家屋棲息率在来種 5%未満、外来種 0%と目標を設定し、2000 年から現在まで中米のシャーガス病対策を支援している。実際に南米のチリ、ウルグアイでは、感染の断絶が宣言されており、中米7カ国(グアテマラ、ホンジュラス、ベリーズ、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマ)及び米州保健機構 (PAHO/WHO) は、「2010 年までに中米におけるシャーガス病の感染を中断する」という目標をあげて中米シャーガス病対策イニシアティブを開始した。この目標達成のため、毎年「中米地域シャーガス病対策連絡会議」が開催され、各国の取り組み<sup>2)</sup>が評価されている。

JICA は専門家、青年海外協力隊及び医療機材を供与を組み合わせ 2000 年グアテマラでのプロジェクト開始し、2003 年

エルサルバドル、ホンジュラスと続き、2009 年ニカラグアでも開始されている。JICA プロジェクトの概要を表2に示す。

表2. シャーガス病プロジェクト概要

|        |               |
|--------|---------------|
| 準備フェーズ | 訪問調査で家屋棲息率調査  |
| 攻撃フェーズ | 殺虫剤散布         |
| 監視フェーズ | 住民参加型監視、部分的散布 |

このように対策は準備、攻撃、監視の三段階に別れており、特徴として監視フェーズで住民参加型のプロジェクトになっており、プロジェクト実施国で実績をあげてきている。

そこで現在進行中であるニカラグアのシャーガス病対策の充実を図るために巨視的視点と筆者の経験を踏まえ、感染者への法的支援と小学生へのシャーガス病の普及活動の2点を考えた。

まず、感染者への法的支援は法律によって国が検査を無料で実施し、感染者には薬や手術を保障するものである。その際、ニカラグア政府の財源だけでは困難であると思われ、日本を含む主要援助国が数割の支援を検討するとした。

次に小学生への普及活動は、理科や社会の教科書にシャーガス病のページを作り、シャーガス病についての授業を実施する。その際、まずニカラグア教育省に許可申請を行い、JICA シャーガス病専門家から教諭達へ、教諭から小学生へシャーガス病の知識を普及させる。また、専門家かシャーガス病対策の協力隊員が作成した小テストで理解度の評価を行う。

この2点を実施する事でより草の根に近い形で、感染者への包括的支援と未感染者である子供達へのシャーガス病予防対策とが可能となる。

### 【考察】

このプロジェクト実施においては、ニカラグアの政府機関をはじめ、日本を含む主要資金援助国の理解と協力が必要である。また、シャーガス病専門家と青年海外協力隊がシャーガス病感染のリスクを抱える住民に対する地道な草の根での活動が基盤となり、ニカラグア国民一人ひとりにそれを自覚させる事が重要であると考えられる。

### 【結論】

ニカラグアの多くの貧困層がリスク環境下にあるシャーガス病について調べ、JICA のプロジェクトが更なる充実を図るための対策を巨視的視点と筆者の体験を中心に提案した。しかし、この提案はあくまでニカラグア政府、ニカラグア人が主導となることが不可欠であるが、自主的な短期的達成は困難を伴う。その可能性を高めるための地道な草の根活動が重要と考えられた。

### 【文献】

- 1) <http://www.jica.go.jp/project/nicaragua/001/activities/>
- 2) <http://www.jica.go.jp/project/honduras/0701409/01/index.html>
- 3) 橋本謙：中米シャーガス病媒介虫対策の現状、国際保健支援会7：2011. 1